

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 90 11 2 3 4 5 6 7 8 9

内村鑑三先生書簡 六

六

明治四十二年

謹みて新年の慶賀申上候

是故に我等斯くも多くの信仰の證人に雲霞の如くに繞聞まれたればすべての煩累と身に纏へる罪とを脱ぎ去り、目を我等の信仰の喚起者にして其完成者なるイエスに注ぎ、耐忍びて我等の前に置かれたる馳場を走るべし、彼は己が前に置かれたる敷窓に因りて恥辱を輕じ、十字架を耐忍び、而して神の寶座の右に坐し給へり。希伯來書第十二章一、二節意譯。

明治四十二年一月一日

東京府下淀橋町柏木九一九

内村鑑三

拝啓、益上御清勝奉慶賀、
陳今般、櫻林集、發行致し、
三付少部、數進呈致し、
御使用、下度、草々

一月二十一日

きかは便郵



Union Postale Universelle
CARTE POSTALE

陸 中國 花卷川口町
齊藤宗二郎様
花卷教友會
御中

拝啓 益上御清勝奉慶賀
陳今般 櫻林集 發行致し
三付少郵數進呈致し 三付可然
御使用上下度下草々

一月三十一日

郵便便

陸中国花巻

川口町

齋藤 隆 郎 様



陸中国花巻川口町

大字柏木九百拾九番地

内村 鑑三

郵便局刷印

郵便者印

拜啓。当方よりは相済みざるまじに傍
無沙汰に打過さる種々と試誘の男
又の身に迫りしを聞き、陰ながら清心配
申上り、然し、今回も亦々、勝得と余りちうし
事とならば、

当方異事ある、つ甘子も大午、助かりに清
座り、彼女の今後の方針は、舟き、小生よりは
家内大に思ふ、運と運し、何とかならず

善きに向ふ事と信じり、
一生雜誌は来月分漸く昨日書き上げ今
日は少くも気楽に清筆を、榎林集、追呈
の分と共に清筆の年のもちと有る、是れ亦筆
者に取り多くの心配を掛け申す、其割合に
功績少からんと、諸君も心配致し居る、
不相変新詩の清筆交換仕らる、

一月三十日

南条 兄

鑑三

1-31

東京府豊多摩郡滝橋町
大字柏木元百拾九番地
内村 鑑三

陸中、花巻川口町

齋藤宗二郎様



田五日前一書奉上册

其後久しく清便り無之に得共清夢
り無之が伺申上り小生も此兩三日
漸く少く暇に相成り或時は此
の事は某事打忘れし机に向り申
其為のに友人との文通う如き二三
週間全く絶やると有之

ツサ子も今度こそは眞の常商に降
りしおとまりの之れよりと徐々として彼女
の運命も開くらるる人となりぬ大抵の日
本は嚴か經が執りかゝ極端に居り
キリスの如く平靜の中和に居るは我等に
取リ長大の困難に清き清地清君
に於ても此中和を世に山人とて偏りに
願ふが如く 二月六日

齋孝兄

鑑三

18.
1927年
二月六日

陸中花巻川口町

齋藤宗二郎様

2-6

東京川島多摩郡川口町
大字柏木九百拾九番地
内村 鑑三

拜啓、清書面正の特
後任の種々の清困難
深く清振之事申上。
貴家の清教正理の件と
は善し清善の母上り
切に断縁を申上る。

ハハハ 取王書の上の言
に由て法措置相成
とは何に

馬太傳五章四十一、四十二節

哥林多前書七章十五節

或ハハニ由て平知の

又と書きたるの上の

手とも説有る、法

志に申す、大い清親

類の確たる、法

あるは申上じるまこと

實に多くの思ふ、因

難の隨ひて由る多の身は
不相應ある或物か付

いし居る故には非む也し

考へり

左清考多考ふまとい申上

以山坐の令今まは四之

其の邊 是の清業也

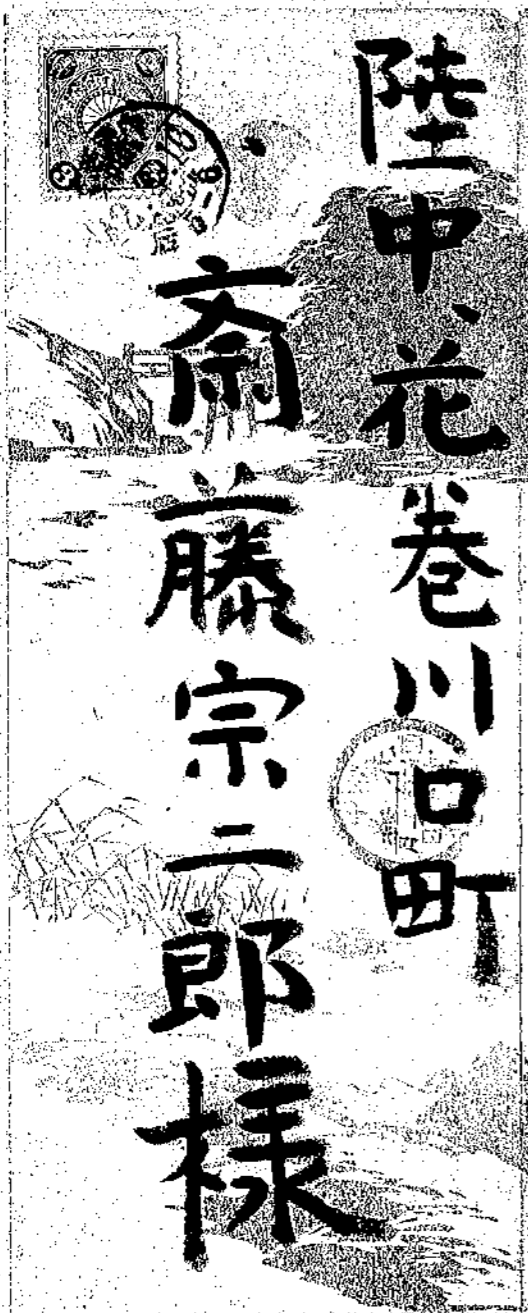
續考

只今報は差生世の

二月十日正午

鑑三

南条元



陸中花巻川口町

齋藤宗二郎様

〒
2-10

東京府豊多摩郡花巻町
大字柏木九百拾九番地
内村 鑑三

拜啓、春暖稍々候し
折柄、貴兄并に清
一統進々として清回復に
向はさる事と存じ、小生も
先月は又々少し寒き氣に
當り、臥床四絶たり、

漸く昨今本復致し

借又々ツサ子ノ事ニ就

申上ル實ニ彼方ノ事ハ

去數年間ニ渉ル問題

ニ清キ事ハ一生ノ事ニ就

コト甚カク才腦力ヲ費シ

カリ今に至リテ之ヲ事トスル

利益ニ至ラズシテ其ノ

申上ル先日貴兄ノ家内

ハ清キ事ニ由リ又々

馬ノ勤者ヲ致シテ其ノ

結局別紙ノ通りノ結

論ニ達シテ其ノ事ハ

考トスルハ其ノ件ノ

説明に就ては今年に於て

を以てしては申上兼ねに上

共、其大意は説明ありと

も判然とあるものと存する

何れ遠かきところ中に清一面

会と得て繕々申上づくか

共、今日の憂事又いかに

の此方針に依り被りた

清めけと下ははく小集に取

りては大意に清め

日本へ社会は未だ個人本

位の程度にまで進み居

り申上、今尚ほ家族本

位の程度に有るが故に

人と救ふに方とも家族

と救ふを以て目的と致さ
れば相成らずとある。ツサ
子の今、商家にては無二
今、商家のツサ子に清きま
ツサ子と救ひんと欲しんが
しこと今、商家と救はざ
るべからざるとある。且又清
とに注言すんきちと人の
家事に就ては餘の御入り
せざるおとに清きま、三か決
しこと不親ゆの故に難た
清との為すいからざる事と
ある。か生、外国の友人に
於て此事ありを見こか生
は内實に深く感し居るが
彼等はよくの所に居る。

年々増えつつあるが、
生の家事に就ては僅かに
容喙と控へ居るに
業の仕支宜を永久に保つ
の途かと存する。
就ては約束の二ヶ月も満
たぬに付、少くも東洋を見
物と稱せし其場園藝
とせし日を標、清養苑知
とす。又又本人母の
も同じく清通知照を
一生は彼等の取らざる方針
の定まり以上は萬事
思ふより相いりて
事なす。

吉田博士の御事の中申上り
因の専ら裕かに清地清
又姉の上の御事の中申上り
を新上り 草子

一九〇九年

三月九日

鑑三

先書

南書

雨伸 何共申上兼
小五共又々草花種
少々法分配
願上り 貴父の年より也

から種は女心して時を
得、昨年と多夫の喜
業とさみみけらる今年
も同一の喜ゆけらるか
んか、華やう

ツサ子に関する余の意見

- 一、余はツサ子は他に嫁すべからざる者ありと信ず(一)日本法律が此事を許さず(三)
- 彼女の家的情實が此事を許さず。
- 一、余は彼女が今西の家を起すか、然らざれば少くとも之を持續するの義務を有する者あるを信ず。
- 一、余は彼女の友人ある者は彼女をして此事を成就せしむるために盡かすべき者あるを

千九百〇九年

三月九日

内村鑑三

封 3-9

東京府豊多摩郡滝橋町
大野和木九百番九番地
内村鑑三

陸中、花巻、川口町
齋藤宗二郎様

要件

19.
三月九日

拜啓、清書面正に特淡、
色々の清困難深く
清推事申上、
関口氏の事に付ては葛
事清教念ありと可然と
有る、同氏は吾人に依頼

するの権利^を既に一度
放棄の致せしむる事
同氏の今後取るべき方
針は日本キリスト教會に
帰るか、然らざれば上州の
故山に帰る事とす。此

方針は自由の事なり

同氏の運命は決して開
かざる事と存す。同氏の要
するものは全然の悔改に
清原を主の前に於ける
碎けたる心に清原を同
氏にいと羨しい上州の故山
に帰らんとす。其

入幕の一部分を夏換
仕るべし

ワサ子も今月末までには

帰宅致させたいもの、書

気志をす為のに市中の見

物出来が、今は暖気り

雲を待てる居りか

今朝家の混雑したる

毒^情は小生の頭脳には

逆も判明致し難かる、又

ワサ子も小生は黙して清

ず、小生は唯同情を寄す

るまごにしし如何にこそ物ナ

人手、其途は小生は明か

り申し、是れ或いは小生の為

し得る所非ず。若し深切
なる辯護士に依頼致し
て人に正真正正に判明致す事
とせらる。信仰は萬事と
判明するの力に非ず。時は
「医責」時には法律家や
援助を要し、いざよ
場合の如きは信仰以外何
かの道方によつて解決せしむ
事とせらる。或は佐藤
昌藏氏に「い」と利いて
世にいふは、如何かとせらる。
是れは法を考ふるまことに申す。
同氏は自ら「海岸線」

物川驛に届く迄

并子母國の節英國

より到来せる赤大根の

種二三種送る申

上りか 押さ

三月十六日

新三

花巻

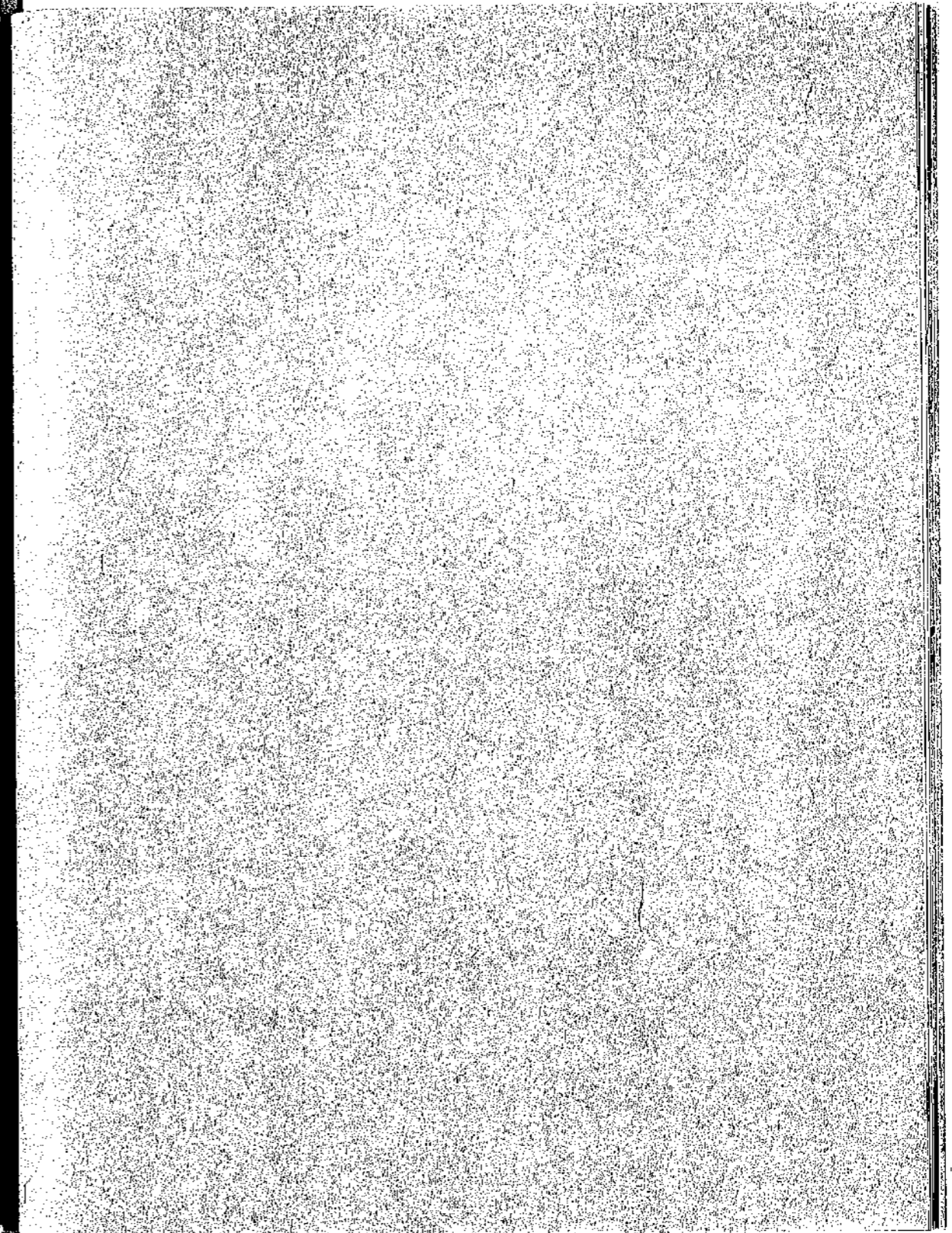
斎藤君

16
3-19

東京川口多摩郡流橋町
大字柏木九百拾九番地
内村 鑑三

陸中花巻川口町

斎藤宗二郎様



品
藤
様

Saiyobini
SEISENKAHIN
Chashinsho

特能、只今清書の面
に接し痛歎且つ清田
情の至りに存ん、人生幾
回か我山生れざりし者ぞ
とく、浩ける神何處に

なる事にかたむき声と

発せしむる事と有之り。

然し此エリ。エリ。ウフ。サ

バシニを發せざれば神の

清心の程は方かり不申。

貴兄が此際ミツカリ

とおさかて天国と深き

縁と結ばし人志と祈

上。

ツサ子の病状。是れ又悲

痛の種に清浄の在

系中何れも彼女に為

才能はす、気の毒千萬
にたりん

然らば、萬物萬事

悉く善あり、法なる方

關のぼと儘に預かる

此白標の直しく法傳の

と下たるが山岸の法

傳言正の承知候、
昔々の

四月七日

鑑三

花巻

齊高為君

20.
四丁二番
10月17日

陸中花巻川口町
斎藤宗二郎様

4-7

東京府夏多摩郡野田町
大字柏木九百番九番地
内村 鑑三

特啓。今日照井君
より書面有之。清愛
娘今尚清重患の
由受玉はり清同情の
至りに不堪。萬事
聖旨に存する事。は。

得共、主が由及父并に清

一族に負ひ難きの重

荷と擔はせ玉はざらん

おとと祈りの

かの花卉種物の如きは

決して清心配と下まじり

大うま々生清氏より来り

と分配致し世にりり

今年は元分に向に念ひ

申す

明十三日は亡父二週年

に當り申す其家の友人

清氏の清同情、今に

忘の難くは

希伯来書二章十節
改譯をに差上申し

多くの人の子と姓宗に
道すかんたのに、之を救ふ
者とし、患の難と以て
完ま成たらしむるは、萬
物の歸する所、萬物
と造らるる者に相あ應こひし

きふとす

是又は今に全能者に
患の難と以て完成らしむる
ゆつとあり、主の恩恵の
業を休むるは、さへ人として

花巻 鑑三

四月十二日夜

鑑三

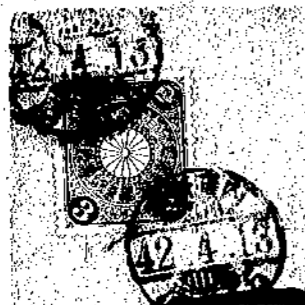
花巻
齋藤宗二郎

4-13

東京府豊多摩郡滝橋町
大字柳木九百拾九番地
内村 鑑三

陸中花巻川口町

齋藤宗二郎様



拜啓、昨日は清夏
眞に只今は清電を頼に
接し、君に又お入りの
人数に望む極痛の
臨みしを知り、重ぬき清

同情申上り。死は之と
何と名つけし。亦如何に
説明しとも死より他の者
に無之。唯深切なる
時として之を聖化せし
むる事。清浄なる。然れど
時として之を聖化せん手、
死ほど美はしき者は無
之。小生は今は之れ以上
を申上げず。

山岸へ直に申由は、
の宛は当地教友会。

一。同。方。進。呈。致。し。る。
弓。左。様。清。美。知。事。
た。と。の。草。々

四月十五日午時

鑑三

斎藤様

花巻

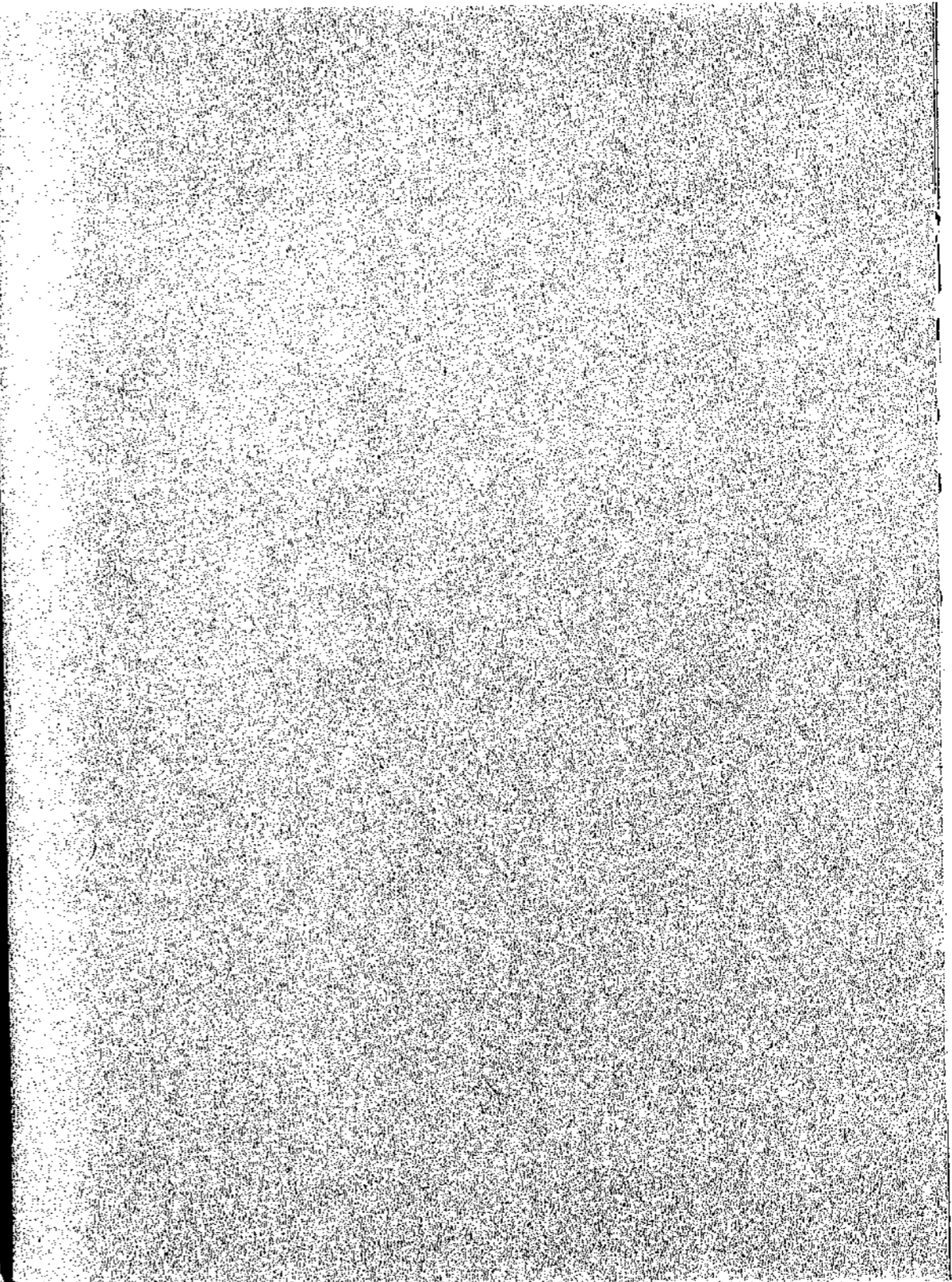
21.
12+5
15/7+2/10

陸中花巻川口町

斎藤宗二郎様

4-15

東京府豊島区
大塚和木九町九番地
内村 鑑三



紙 送 送 報



局 著	局 發	第	報	受 信 人 居 所 氏 名
受信者 局 第一 時 十 分	發信局 東京 九 時 三 分	第四 二 號	報	ハナニキ オカヲク イトウ
定指				
事記				
著信番號				
第 一 號				
附印				

Handwritten notes:
 ① 東京 九時三分 發
 ② 第一 第二 號
 ③ 受信者 局 第一 時 十分
 ④ 受信人 居場所 氏名 ハナニキ オカヲク イトウ
 ⑤ 著信番號 第一 號
 ⑥ 附印

國府印刷局 四年十月十四日



拜啓、其後、追々として
恢復復の志をなさん。此
際、悲哀の甚く、魔鬼が
身を捉へ、捕縛にせざらん
と、心を祈り、遠からずして
君の愛する者は、其の筆を以
て、君の筆に帰るべし。

而して君に大なる歡喜を
もてし。君は其時復た
何たる事を知らるべし。新
清待りたまらるべし。

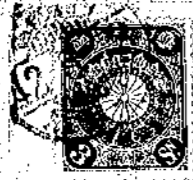
当方にとも小供兩人少るや
九前週は家は小兒病後
と化しか。然し幸はし今年は
心抱絶えぬ。

ツサ子も返ると快方の事し
有る。右清見無群を早々

五月二日

鑑三

巻
南義見

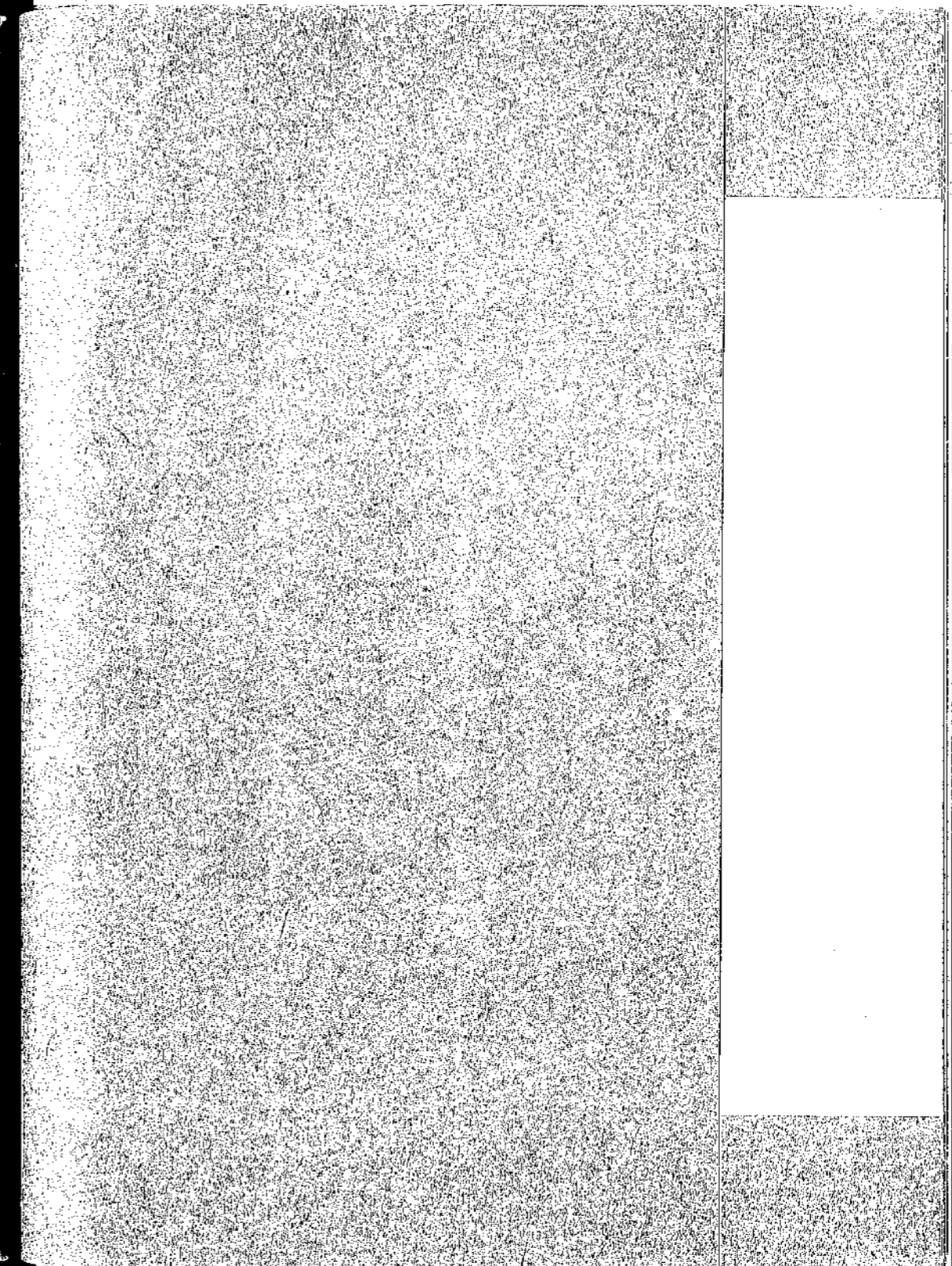


陸中花巻川口町

齋藤宗之郎様

5-2

東京府夏多摩郡松崎町
大寺柏木九百拾九番地
内村 鑑三



拜啓 昨贈與の果物昨日無事
到着致し左様御承知に度し
早速は礼状可差上共には得共
目下取込み申すに端書にては礼
申すに何れ其中送す可申す

三月十日

草々頓首



郵便加

陸中花巻町
齊藤宗次郎様



東京市豊多摩区花巻町

大字柏木九百九十九番地

内村鑑三

印刷局

港信省發

拜啓代筆仰免下^レ三^レ度 雜誌

原稿調成の結果右の手未だ

元の如くあらす友人への仰文

通は総て永井君に代筆願

居

先日結構ある甚果澤山に

御贈りとの誠に 誰有奉存

久しぶりにて果物らうき果物
を頂載致し且つ貴見の神
聖なる勞働の結果あるを知り
一層の感謝を以て頂載
仕り尚ほ又今日は故愛子嬢の
貴き紀念物清贈りより甚だ
恐縮の至りに存り唯之を見て
却て涙を催ふすのみにて貴見
の御心中を察し甚く心を
痛めたり此上は神の恵み
御互の上に加はり之によりて
貴兄と平生との御友誼が一層
強められ此世の戦争を終る迄
其遂に絶えざらんことを祈る
迄に清座り

小生去る四月筑波登山を
試みて腰と足とを痛め今に
全快不仕依て遠方の外出は
一切中止致居り是又何か
よき摂理の命ずる所と存じ
感謝致居り候し思想は
益々上進する様に被考ル

異教會より義の基督教の
根本を義たる事が近々と
明白に相成り甚だ喜び居
リ

先日高橋きよ女よりつさ子
對津野氏縁談の事に就て
申来り候に唯今返事差
出置り御承知の通り生は

此事に就ては最も不得手に有
之今自迄一つも且て成功せし
事無之就ては若し貴長身
の照井君に於て御異存無之
れば此事に當りし間敷
哉小生より特に願上ル小生は
若し本人等の健康上に
差支無之限は此縁談は至
て替身成に申座ル尤も今西
家の相續問題は如何に相
成ル也其点は小生には未だ
解し兼小実に古き舊事此
問題には亦互今に尚ほ頭
腦を悩し申ル
右席禮堂申上ル萬事

御惠みの下に善に向て働
らく事と存ト草々頓首

六月十四日

鑑三

齋藤宗三郎君

再伸春藤君沛地滞在の由更敷傳へ
此度願上ト

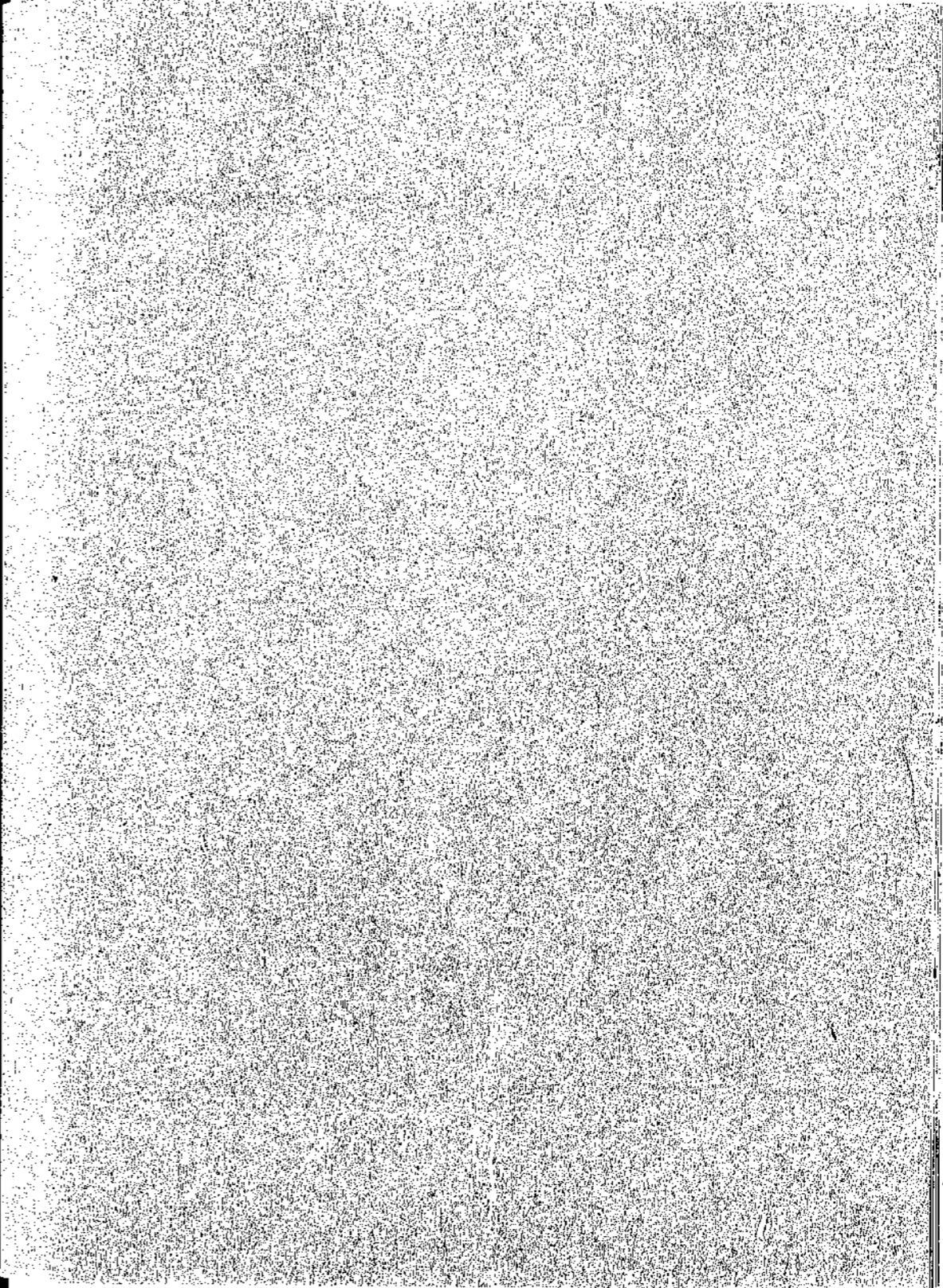


陸中花巻川口町
齊藤宗三郎様

十

11月10日

東京府豊多摩郡滝橋町
大字柳木九百拾九番地
内村 鑑三



拜啓梅雨の候にて懃懃陶敷
以得共貴兄並に御一統而変
ふき事と存し

陳い友人獨逸人クニテルト氏
先般高等學校を辞して卒業専ら
教友訪問に従事致居先般は

千葉縣鳴濱村に参り大に彼地
の教友を慰め申し就て此次は
貴地に参り度由申居ルが都
合如何にルや伺ひ申上同氏の
都合にては来月上旬参上致度
由申居ル勿論同氏より進んで
参上致す事にと間諒請ひ支辨

等の御心配に更らに要し申され
且又食物も自身用意可仕間
其辺も御心配に及び申され唯
寝所と傳道の機会とを市並
下されルは物足り申上同氏
迄は申上ル何分の御返る願也

早々彩首

六月二十九日

鑑三

齊藤宗次郎様

6-29

東京市豊島区
大字の本丸町九番地
内村鑑三

陸中團花巻川口町

齊藤宗次郎様



Union postale universelle
CARTE POSTALE



郵券は郵

陸中、花巻

川口町

斎藤宗三郎様

明後日帰宅 七月廿一日

那須温泉湯本

小松屋方

内村鑑三

暑気厳しく其後清多
と多とて多か小生祐之と共
五月廿七日より鳴瀬に参り居
昨日帰宅致し明日より又
の同下女と男に二人にて留守致
鳴瀬に於て海保を改定
事業を着々功を奏し居るや
見受け申す
御地借兄姉へ宜しく清傳へ
だりつ子如何に致し居
佐藤翁には未だ清面会に相
成りぬはすや伺申上る水澤
老婦人にも清傳の節宜しく
清傳へおしりたか 廿十日

八月十三日

内村鑑三



那須谷月白の三山連の景

Union
CART



三書新発社

本社は東京千代田区千代田一丁目一番地

老かは便郵

陸中、花巻川口町
斎藤宗三郎様

拜啓本年は暑氣殊に厳しく候處貴下益々御清康の事と奉慶賀候扱誌上に於て豫め廣告致候處の「櫻林集第二集」發行の儀暑氣酷烈の爲め執筆甚だ困難を感じ候折柄醫師並に友人の勸告も有之候に付右は甚だ残念ながら休刊致す事に致し候間不意致御承知被下度願上候御拂込の代金は別に御通知無之節は雜誌前金に繰込み可申又は御申越に由り他の出版物を以て御償ひ可申候右御斷迄に申上候草々頓首

明治四十二年八月

東京府下淀橋町大字柏木九一九

聖書研究社
内村鑑三

きかは便郵



Union Postale Universelle.
CARTE POSTALE

陸中、大港
川口
永康堂印



拜啓 残暑尚ほ厳しく此處

皆様沛変りあき由大慶に

存レ

陳ハ先日の伊藤くま子父子

来訪有之レ節ハ丁度雑誌

原稿中ヨリて萬事不行レ届キ

有之貴兄に對シても甚ク比

申譯無之に併し中生は彼
女を一目と今日の彼女の三年
前の彼女と全く別人物あるを
知り申し素樸の容貌に去て
都會の風流女と化し純然たる
女學生と相成りしを見て心甚

いふ女の感...
且人をわら後

女の今日の状態を探りし處未だ
離婚とありて一週間も相成り
申さず且又如何に我黨の
一人あればとてかゝる事に關し
先方の申分を聞かずして
直に
彼女に同情を表する事は

公平を貴ぶべき我等に取つ
ては大に謹むべき事と存し依て
何れの點より考ふるも今日真に
彼女を御預かり申す事は
小生に於ては如何にてもあし
難く依て貴兄併に小田代

老人に對しても甚だ御氣

の毒には存じ得共一先づ彼女

に帰國を促し以次御に御座り

間々悪からず御氣知と一度小

其後御地に帰り彼女に於ても

篤と京地に於ける彼女の生涯

に就て回顧し大に悟る所あり

復たび純樸ある山出しの婦人
とありて上三京致し小節の當方
に於ても出来得る限り
世話は致し申すべく此旨
彼世並に小田代老人に氣篤と
傳へて一度願上は右用
事の子申上度草々

九月二日

鑑三

老卷
齋藤君



陸中國花巻川町
齋藤宗一郎様



封 九月二日

東京市豊多摩郡花巻町
大字柏木九百拾九番地
内村 鑑三

拜啓 別便を以て小生寫
眞一枚進呈致しかる

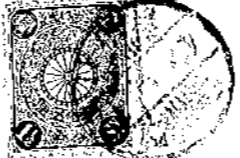
清隆の手と下たりの

柳田君と以て清書面正に

拜受仕り清書よりため新う申か
九月十二日朝

拜啓久しく清書通無三小得共別に
由考り清書とく小や伺ひ申上り小數
週間前小生寫眞一枚進呈致置り
得共右の清書取に相成りや清書に
節清知らせを願上り小生明日清
地出飛山形縣関山近敷友訪同に参り
小生向清地へは失礼致し五月には帰
宅可致し草々 九月三十日

郵便はき



陸中、花巻川口町
斎藤宗三様

東京府豊多摩郡滝橋町

大字柏木九百拾九番地

内村 鑑三

Union Postale Universelle
CARTE POSTALE

拝啓久しくお天通無事と得共別に
由事よりお座あくお伺ひ申上り
週間前にお生寫真一枚進呈致置
得共おお取に相成りお座
節お知らせを願上りお生明月
地お登山形縣関山遊藝反訪同に
お今おお地は失礼致し五日には
宅可致し草々 九月三十日

きかば便郵



陸中、花巻、川口町
齋藤彦三郎様

水戸川重多摩郡花巻町

大字柏木九百拾九番地

内村鑑三

送翠同刷印

并發在信徳

清書面画に辨後関口氏赤分
の由に付き、今別に振替貯金と
以て金と申す、又此の差上げの
付き清書年の末迄、清使用
に下たぐ、定家の洞門の事は、言ふに
忍び十開くは忍びず、北帳入に於て
生、敵、欺く所とす、終に今日に至
り、事、言ふに、至極に清書
然し、今と生、晩く無之、悔は、故
仰に、帰られ、元、清、ある生、生、と
送、れ、ん、と、ま、切、切、は、依、り、
当方の事、一月前より、助、膝、火、に
、今、も、高、は、床、に、就、き、居、り、然、し
、今、は、最、早、や、心、配、無、之、但、し、一、時、大
、心、配、致、し、ら、る、務、申、用、事、
、中、上、の、草、千、々

十月廿六日

町川巻花中陸

齊藤宗三郎様

郵便券

東京府豊多摩郡立橋町

北巻九拾九番地

内村 鑑三



Union Postale Universelle
CARTE POSTALE

科啓。陳は今日ハルツ
病氣清見無料とし
美事ある果物澤
山ハ清送リヒト。イモ
赤心清愛心。当人

は勿論父母まじり有
難く是事なり。如斯に
して僅かばかりの苦痛
は多くの因心惠を招く
機会とあり。差引き
利益は我等の首に
降し。感謝の事なり。
先日は園口氏のちと。向
法申越じ。種々の法
面倒有難事あり。
同氏は未だ自由人物
の何たる事と解せざる人

とあるが、氏の如きが我等
と同様の主義をもつと表
白するは我等に取リ大
なる迷惑の法である。此
上は帝國の上、根本キリ
者へ直すの必要あること

伊藤公其死志に教ま
るる國民特ニ新聞紙の
態度を果するの外無之
り。實に當てにおよぶは
此世の批評に法である。
我等は公を以て世と敵か

生をすの必要と感心する
次第に清き事。

并子并に工藤善太郎印
君よりいつ見無年手紙と
送り来り有難き事なり。

清彦の弟と且し清傳
へどもたらり。

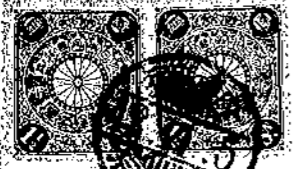
左清礼王ごに申すに可なり

千九百九年十月五日

鑑三

花巻

南条君

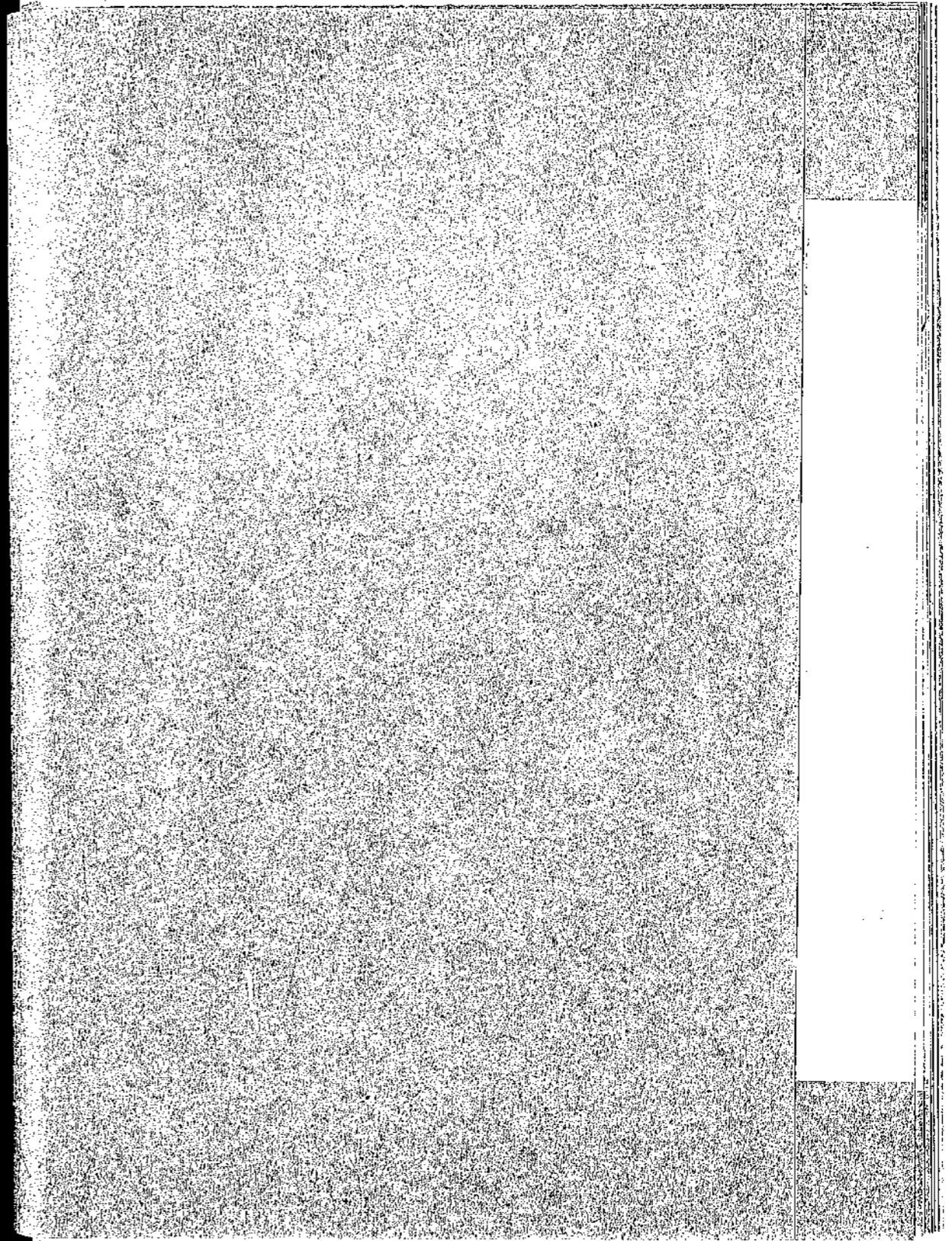


文相 藤宗二郎様

陸中花巻川口町

11-5

東京府豊多摩郡滝橋町
大字柏木九百拾九番地
内村 鑑三



拜啓、清端書に接
し、山火害々又々中々先
に臨々しと羊私はり、自
己に大打撃手とまじし
やうに感心し申す、然し

神は貴兄が之にも能
く堪え得ると知リ給ふ
貴兄とて自己の信仰
を自覚せしめんために又々
此の災難を貴兄に送り
給ひしと云はば快く之
を清く受けまうと云ふこと
願ふ。多分遠からずして
試練の時期は去リ、
報答の時期は到来
すること。固く信じて申し、
小生には稍々君の前途

の如何に用け行く事と
振知し得るやうに感心せ
らる。

先日ルツツの清見舞に
對し、照井君の對、この
清礼を渡すことにはま
清面念の節直しく清

傳へられたる。今さうに
よろし海女美上由十八
と。句々

一九〇九、十二月八日

鑑三

花巻

22.
10月8日



陸中花巻川口町

斎藤宗二郎様

11-8

東京府多摩郡滝瀬町
大字柏木九百拾九番地
内村鑑三

斎藤君

拜啓 別紙 小額
グニテルト 氏并ニ生
を通之ニ 神が貴
君ニ贈 与ニ 昔ニ
度々 了 清心 配 志

く清多納 とくたのり

差出人は シヤウジン びん

氏の名に相成 シノナニ あり左

やう清業 シヨウゴウ 知 チ じつた

の

神 カミ 事 コト 六 ムツ 思 オモ

と ト 清 シヨウ 業 ゴウ 知 チ じつた

敬 ケイ 啓 キ 啓 キ 啓 キ

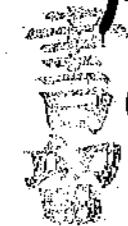
十月十二日朝

鑑三

元巻

23
47-2
+19 + = 10

陸中・花巻川口町
齋藤宗二郎様



票號番
壹七八

11-12

東京府豊多摩郡松陰橋町
大字柏木九百拾九番地
内村鑑三

斎藤宗二郎

粹然其後清容
子如何に也同申上
萬事益と爲しつと働
らきつとあること存あり
別に小包便を以て歡

喜と帝の進十冊進
上致しから内五冊は
貴又へ、三冊は照井
君へ、二冊はツサ子へ
清分配おしとらたか
之に沈み切つたる現

今の社会へ微きよ
投げ入らたか
ルッ候も幸とて全快
致しか又々感海のシリ
スマスと送り得るちと
ありん
因の連の裕かに花巻

諸君の御心算に
ア一七

千九百〇九年十二月二日

鑑三

サノ彦君

12-2

東京府豊多摩郡滝橋町
大野和木九百拾九番地
内村 鑑三

陸中、花巻川口町

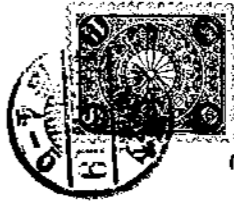
齋藤宗二郎様



拜啓、今日小包便
にてクリスマス法被り
と袖逸より到来の
小兒画一枚差上
召滞落年と下た
此法被り年の上はハ
カキに一寸法被り
と下たし願ふ草

十二月十九日

きか便郵



Union Postale Universelle.
CARTE POSTALE

東京府豊多摩郡澁谷町
大野池水元百拾九番地
内村鑑三

陸中、花巻、川町
齋藤宗三郎様

